



あ

あかぬま
赤沼の
獅子舞を見て
病せず

赤沼の獅子舞は、享保三年（一七一八）七月に越谷市の下間久里の獅子舞が伝授され、現在では、赤沼民俗文化財保存会が継承しています。獅子舞には、無病息災、五穀豊穰等の願いを込めて行われるものです。

平成二年四月に市の無形民俗文化財に指定されました。



い

いこ
憩いの場
釣り人たくさん
薬師沼

薬師沼親水公園は、昭和六一年にオープンしました。釣りができる薬師沼の他、憩いの家があります。

沼では鯉、ヘラブナなどが釣れ、多くの釣り人でにぎわいます。



う

うちまき
内牧の
梨狩り楽しい
家族連れ

内牧地区には、梨園が多くあり、八月初旬ころから梨が出回ります。内牧の梨は庭先直売の形式をとっている梨園が多いため、ほとんど出荷されることはありません。シーズンには、家族連れで収穫体験を楽しむ姿も見られます。



え

えだひろ
枝広げ
お葉付きイチヨウ
実をつける

新方袋の満蔵寺のお葉付きイチヨウは、推定樹齢三五〇年を越える大樹です。このイチヨウは枝が水平に出ることと、枝の端に葉が群生するなどの特徴があるほか、葉のくぼみに実を付けるという珍しい性質があります。

昭和二九年一〇月に、県の天然記念物に指定されました。



お

おおまし
大増の
虫追い豊作
願い込め

虫追いは、災害除けの農耕儀礼としての起源をもつもので、虫追いにより稲につく害虫を駆除し、作物の無事な成育を祈り、あわせて五穀豊穰を祈願するものです。

虫追いの形式は、全国的にほぼ同様で夕方から夜にかけて麦わらで作ったたいまつをかざし練り歩きます。下大増新田では、毎年七月に行われていました。



か

か 風かぜに散る
桜さくらの花見はなみ
古隅田ふるすみだ

古隅田川は、川幅五メートル、川の長さ約四キロメートルで、川沿いには、冬季の季節風がもたらした内陸砂丘が発達していて、浜川戸地区などにその砂丘が見られます。

また、桜の花は古隅田川と古利根川の合流付近で見られます。



き

き 希望きぼう乗せ
大風高おおだこたかく
大空へおおぞら

日本一の規模を誇る宝珠花大凧揚げは、天保一二年（一八四一）、旅の僧・浄信が伝えた「紙タコ」に由来するといわれ、明治時代に、端午の節句に大凧を揚げるようになり、現在は毎年五月三日と五日に江戸川の河川敷で揚げられています。大きさは縦一五メートル、横一メートル、畳にして百畳分の大きさで、重さは八〇〇キログラムもあります。

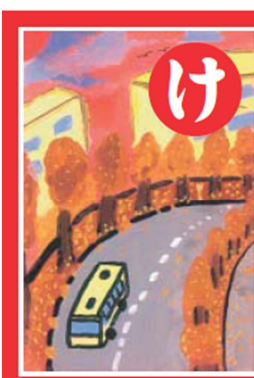
昭和五七年一二月に市の無形民俗文化財に指定されました。



く

く 蔵造りくらづく
面影残おもかげのこす
宿場町しゅくばまち

粕壁宿は、日光道中の二〇宿のうち千住から数えて第四番目の宿場でした。天保一四年（一八四三）当時の資料によると、粕壁宿の規模は人口三七〇一人（男一七九一、女一九一〇）で、家数七七三軒と記されています。これは現在の県道さいたま・春日部線沿いにあたります。



け

け けやき通りけやきどおり
落ち葉舞おちばまい散るち
秋あきの日々ひび

けやき通りは、武里団地入り口の五差路の交差点から新方川までの団地内を抜ける幹線道路です。榎の木は四季折々の顔をのぞかせてくれます。

また、けやき通りという愛称がついた由来は、榎の木をいつまでも大切にしていきたい、という願いからです。



こ

こ 子育てこそだは
明日あすの夢ゆめかけ
呑龍どんりゅうに

呑龍上人は、弘治二年（一五五六）に一ノ割円福寺前の武州岩槻城主の家臣の家に生まれました。幼少から秀才で、後に群馬県太田の大光院の開山僧として招かれました。修行中呑龍は、生活苦による墮胎や幼児殺しがあることを知り、説法して歩くと同時に貧しい子を弟子として養育しました。その慈悲深い心と愛育精神は今も名高く子育て呑龍と呼ばれるゆえんとなっています。



さいしやういん
 最勝院
 しそ なのか
 市祖の名残す
 しげゆきこう
 重行公

当地の領主であったといわれている春日部重行公は、元弘の乱（一三三一）に参加し、滝口左衛門尉という役職に任じられました。延元元年（一三三六）、足利尊氏京都侵入により、天皇警護のため、新田義貞、名和長年らの武将とともに尊氏軍と交戦しましたが敗れ、京都で自決したといわれています。この遺骨が最勝院に葬られているといわれています。



じやうしゆいん
 浄春院
 よぞら ひび
 夜空に響く
 じや かね
 除夜の鐘

不二山浄春院は、小湊の古利根川沿岸に連なる美しい松林の小湊砂丘の上にあります。曹洞宗の古い寺として知られています。享禄二年（一五二九）に幸手の領主一色宮内大輔公保公を開基とし、梅室門英師が開山しました。



すかじんじや
 須賀神社
 こ みまも
 子ども見守る
 おお
 大イチョウ

備後須賀稻荷神社は、武里小学校裏にある社です。順徳天皇の建暦元年（一二一一）春日部治部少輔の創建によるものと伝えられています。王子稻荷、佐野稻荷、とならんで関東三社稻荷と称されています。この社に奉納されている「とうか（狐）のわらじ」をお借りして乳児の枕辺に置くと夜泣きが直るといわれており、わらじは今も拝殿わきの小屋にあります。



せんじん
 先人の
 く つた
 暮らし伝わる
 はなづみかいづか
 花積貝塚

花積貝塚は、昭和三年に大山柏氏によって発掘調査が行われ、上下二層にわたる文化層の発見と、特徴的な土器の出土で全国的に有名になりました。この貝塚は、花積下層式土器の標識遺跡であり、県内では数少ない縄文時代前・中期の貝塚としても、学術上欠くことのできない遺跡で、昭和三四年一月に市の史跡に指定されました。



かぜ
 そよ風に
 ゆ はなぶさ
 揺れる花房
 ふじ
 通り

ふじ通りは、春日部駅西口駅前から大沼運動公園入り口までの全長一六〇八・五メートルの道路です。この道の両側の歩道約一キロメートルにおよそ二六本のフジが植えられていて、四月下旬から五月上旬にかけて紫、白、ピンクの花を楽しませてくれます。また、四月の最終日曜日にはこの通りを利用して「春日部藤まつり」が盛大に行われます。

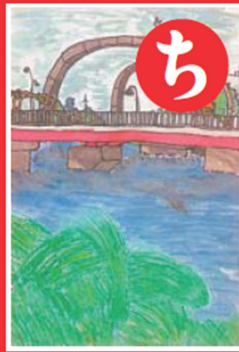


た

た 太鼓打ち
いなほ おど
稲穂も踊る
かぐら
神楽ばやし

東不動院野地区には不動院野の神楽が伝承されています。神楽は鎮魂の目的で行われ、江戸時代の後期には祓的な要素をもつようになりました。

不動院野の神楽は茨城県稲敷市の大杉神社の神楽を習ったものといわれています。昭和六一年三月に市の無形民俗文化財に指定されました。



ち

ち 彫刻と
みどり
緑あふれる
こうえんばし
公園橋

古利根公園橋は、昭和五九年一月に完成しました。

公園橋にはステージ、屋根付き休憩施設、幅一三メートル高さ二・五メートルの滝、藤棚などがあり、緑があふれています。

また、彫刻は公園橋上に七体あります。



つ

つ 月明かり
はちまんじんじゃ
八幡神社
たきぎのう
薪能

薪能は、能楽の演出方法の一つで、野外の舞台で篝火をたいて照明とするものです。由来は奈良市の興福寺の催しで行われた神事の能です。この薪能が全国各地で催されるようになったのは、昭和五〇年代からで、春日部でも昭和五七年に春日部八幡神社の鎮座六五〇年祭に奉納され、以後隔年で一〇月下旬に奉納されるようになりました。



て

て 伝統の
まごころこ
真心込めた
きり
桐たんす

桐たんすの歴史は、寛永年間に日光東照宮造営のため全国から集められた工匠が、この近在から産出する桐を材料に作り始めたのが起源です。その後、大正時代に技術改良が加えられ、春日部の高級桐たんすとしてその名が全国へ知られるようになりました。



と

と 年の瀬に
しんめいさま
神明様の
とり
酉の市

神明社の酉の市は毎年一二月一四日の大祭の日に市が立ちます。ここでは、熊手、お多福面、入り船などの縁起物が売られます。関東では、一月中の酉の日以外に熊手市やおかめ市が開かれる例がありますが、これは鳳明神を独立して祭っていないため、神明社もこの例で大祭の日に酉の市が行われます。



な
なりひら
業平の
おも
思いを伝える
ユリカモメ

ユリカモメは、平安時代の「伊勢物語」に歌われた都鳥です。八幡神社参道の「都鳥の碑」は、在原業平が東国を旅しているときに、古隅田川に遊ぶ都鳥を見て、歌を詠んだという故事を記念し、建てられたもので、ユリカモメは歴史的にゆかりがあり、多くの市民に親しまれています。平成一九年に市の鳥に指定されました。



に
にひやくよねん
二百余年
れさし
歴史を誇る
やじま橋

元文二年（一七三七）に、さいたま市岩槻区との境である古隅田川と上豊川の合流付近に架かっていた石橋で、現存する石橋では県内最古のものといわれています。昭和六〇年二月に市の有形文化財に指定されました。

現在は、南中曾根の古隅田公園内に移設し保存されています。



ぬ
ぬかあめに
やさ
優しく咲いた
桐の花

市の木である桐は各地で栽培され、北九州の一部には野生状態のものも見られますが、原産地はわかっていません。落葉高木で、高さは一〇メートル位、葉の長さ二〇～三〇センチ位になります。桐は軟らかく湿気を吸わないため、本市の特産品であるタンスや家具、また桐小箱、羽子板などに用いられます。

晩春に薄紫色の花を咲かせます。



ね
ねがごと
願い事
おど
踊る獅子舞
ちようしぐら
銚子口

銚子口の獅子舞は、元禄一〇年（一六九七）に越谷市の下間久里から伝わり、現在まで約三〇〇年以上もの長い間受け継がれているものです。この獅子舞は日本無双角衛獅子ともいわれ、俗に三匹獅子舞と呼ばれています。

昭和六一年三月に市の無形民俗文化財に指定されました。



の
のうぎよう
農業の
ほうさくいの
豊作祈る
えのき
榎の神楽

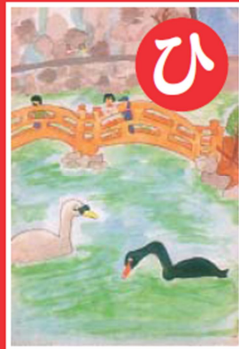
榎の囃子神楽は、毎年七月一五日前後の日曜日に榎区内の集会場で行われます。囃子の由来は、正徳年間（一七一一～一七一六）に大杉神社から神様を迎え、疫病退散と五穀豊穡の祈願に演奏したことが始まりといわれ、神楽は明治時代に東京の太夫元から伝授されたといわれています。昭和五七年一二月に市の無形民俗文化財に指定されました。



は

は は 母と子の
かな かな 悲しさ伝わる
つた つた 梅若塚 うめわかづか

平安時代の中頃、京都に生まれた梅若丸は、七才で比叡山月林寺に稚児に出されました。その後、人買いにさらわれ東国まで来たとき、重い病気にかかったため隅田川に投げ込まれ、それにより亡くなりました。母は、息子のゆくえを探している時に一周忌の法要に会い、やがて世をはかなんで鏡が池に身を投じました。梅若塚は、この伝説によるもので現在新方袋の満蔵寺にあります。



ひ

ひ ひ 人々の
ひとびと ひとびと 心安らぐ
こころやす こころやす 大池公園 おおいけこうえん

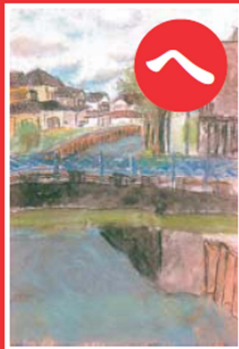
大池親水公園は、平成二年にオープンしました。公園に囲まれた憩いの家があり、公園内には、中の島、太鼓橋、あずま家が設置されています。また、池には噴水や滝があり、ここを訪れた人々の目を楽しませています。



ふ

ふ ふ 藤の花
ふじ ふじ はな はな かおり爽やか
さわ さわ 五月晴れ さつきば

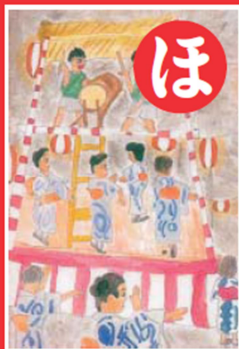
フジは、日本最古の文献「古事記」や歌集「万葉集」にも登場することからもわかるとおり、古くから人々に愛されてきました。市内にある牛島の藤は、樹齢一二〇〇年以上ともいわれ、明治時代には、花房が三メートルに達したこともあります。また昭和五五年に春日部郵便局から春日部地方庁舎間の車道を挟んで左右の舗道上に約一キロメートルの藤棚が整備され、「ふじ通り」として親しまれています。平成一九年二月に市の花に指定されました。



へ

へ へ 平安の
へいあん へいあん 昔を語る
むかし むかし 業平橋 なりひらばし

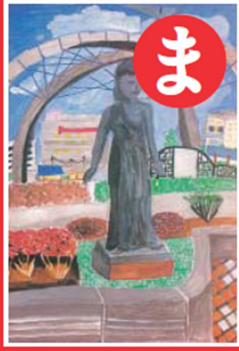
業平橋は、現在豊春小学校東側、県道さいたま・春日部線に架けられています。この橋は、明治二一年に架けられたものですが、もともとは一〇〇メートルほど上流にあったもので、在原業平にちなんで名付けられました。業平は伊勢物語の主人公とされ、才気に優れ、多くの歌を残した人です。



ほ

ほ ほ 盆踊り
ぼんおど ぼんおど 春日部音頭で
かすか かすか 盛り上がる あ

春日部音頭は、昭和二五年に連合青年会によりつくられたものです。今でも、各地区の夏まつりなどで踊られ楽しまれています。



ま まちなみ
街並に
ふと気になるよ
乙女像
おとめぞう

春日部駅東口周辺を中心に設置されている彫刻は、平成元年のふるさと創生事業として市民のアイデアから生まれた「彫刻のある街づくり～アートアメニティ構想」に基づいて整備され、現在までに二二体が設置されています。乙女像以外にも個性あふれる彫刻が、文化的なゆとりと潤いを感じさせてくれます。



み みりやく
魅力ある
江戸の面影
おもかげ
花蔵院
けぞういん

花蔵院は、真言宗豊山派に属す寺院で、江戸時代までは、西金野井香取神社の別当として祭祀を執り行っていました。山門は、屋根を支える二本の本柱の他に、前後二本ずつ計四本の袖柱があり、四脚門といわれています。昭和三〇年一月に県の有形文化財に指定されました。



む むぎ
麦わらや
羽子板並ぶ
はごいたなら
しょうこう
商工まつり

商工まつりは、昭和四七年から毎年一〇月下旬に大沼運動公園で行われています。本市の特産品である桐たんす、桐小箱、押絵羽子板、麦わら帽子の展示をはじめとする工業物産展や商業即売会、アトラクションなどが行われるほか、毎年違ったテーマのイベントを実施して多くの市民から喜ばれています。



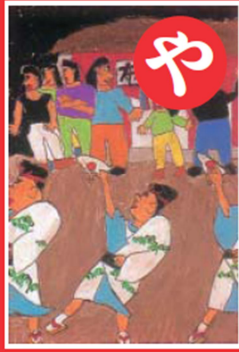
め めみは
目を見張る
豪華絢爛
ごうかけんらん
牛島の藤
うしじまふじ

牛島の藤は、野田藤の一種で、根の周囲は四メートル余り、藤棚は六〇〇平方メートル、樹齢一二〇〇年以上といわれる古木で、これほどの樹勢をもつものは大変珍しく、明治時代には、都内からも多く有名人が人力車に乗り訪れたとのことです。昭和三〇年八月に国の特別天然記念物に指定されました。



も もい
萌え出づる
ムクの大枝
おおえだ
蓮花院
れんげいん

ムクは、ニレ科の落葉樹で、蓮花院のムクは樹齢四〇〇年、幹周り六メートル、高さ二七メートルの規模を誇る県内屈指の巨木です。六本の太枝を二五メートル四方に大きく広げています。昭和一九年三月に県の天然記念物に指定されました。



や
 やつたりの
ゆかたすがた
 浴衣姿で
なつほんばん
 夏本番

昔、大畑村と備後村の間に不毛の荒地があり、この土地に課せられる夫役を嫌って互いに押しつけあっていました。相撲の勝負により決着をつけたところ、大畑村が勝ち、歓喜のあまり「やったりな一、やったりな一」と踊ったことが始まりといわれています。現在は七月一五日に近い土曜日に大畑香取神社で行われています。昭和三〇年一月に県の無形民俗文化財に指定されました。



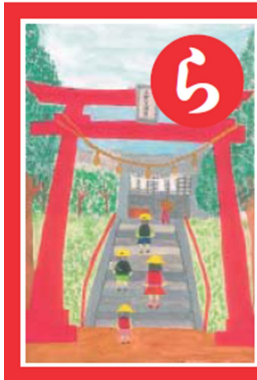
ゆ
 ユリノキ通り
しき
 四季の变化の
へんか
うつく
 美しさ

ユリノキ通りは、国道四号（緑町四丁目交差点）と国道一六号（増富北交差点）を結ぶ全長二九五二メートルの道路です。この道路はその名のおりユリノキが道の両側に植えられていて四季おりおり美しく模様変えします。



よ
 よく学べ
まな
 みんなの郷土
しりようかん
 資料館

郷土資料館は、教育センター内にあり、常設展示室と企画展示室があります。常設展示は、時代の流れに沿って春日部の歴史をわかりやすく説明しています。企画展示で、市になじみ深い歴史・文学・人物などを紹介しています。



ら
ランドセル
背負せおつてお参りまい
たてのてんまんぐう
立野天満宮

立野天満宮は、元久年間（一二〇四～一二〇五）の創建と伝えられ、享保一一年に現在の地に鎮座したといわれています。現在の本殿は寛政元年（一七八九）に再建され、その造りは北野天満宮をかたどり、江戸時代後期の建築物の特徴をよく表しています。昭和六一年六月に市の有形文化財に指定されました。



り
リズムミカル
おとなおとなも子どもこ
かすかべ
春日部サンバ

春日部サンバは、平成元年に歌を通してみんなの心と心がふれあい、生き生きとしたふるさとづくりをしたい、との願いから誕生しました。市内で開催されるまつりなどでも踊られ親しまれています。



る
るり色のいろ
空を羽ばたくは
シラコバト

シラコバトは、ハト科でシラバト、ノバトとも呼ばれ、キジバトの仲間ですが、やや小型で尾だけ長く、ほっそりしています。首に黒い横線が走っているのが特徴で、国内では埼玉県東部地域に生息しているだけです。国の天然記念物で、昭和四〇年に、県民の鳥に指定され、本市でもよく見ることができます。



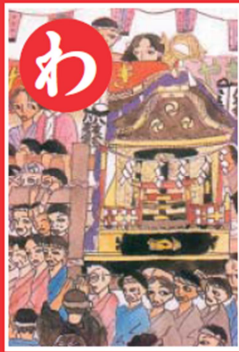
れ
歴史あるれきし
小さな芸術げいじゆつ
桐小箱きりこばこ

徳川時代、日光東照宮造営に参加した工匠が当地で桐にひかれて、たんすの不用材で小道具の整理箱、箱枕などの製造を試みたのが起源です。桐小箱は貴重品などを入れる箱として珍重され、昭和五二年に県の特産品の指定を受け、現在では輸出商品としても年々需要が高まり、日本一の生産量を誇っています。



ろ
路傍にてろぼう
昔を語るむかし
一里塚いちりづか

市内の一里塚は小湊（国道四号を春日部方面から向かい、小湊南交差点を左折し、約三〇〇メートルほど行った右側）と備後（国道四号を春日部方面から向かい、備後北信号機手前の左側）にありました。一里塚は、江戸日本橋を起点として、街道に一里（約四キロメートル）ずつ建てられて旅人の目安となっていました。



わ ワツシヨイト
 げんき 元気な掛け声
 なつ 夏まつり

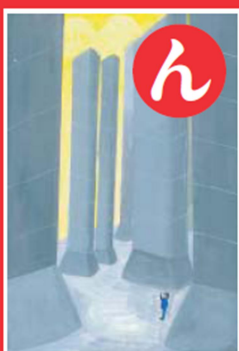
毎年恒例となっている春日部夏まつりは、七月一三日に近い土・日に行われます。大人みこしと子どもみこしをあわせると二〇数基がかかります。昼は子どもみこし、夜は大人みこしが威勢のいい声をあげながら、春日部駅東口かすかべ大通りを中心にパレードします。



を ろっびやくねん
 じゅれい 樹齢を誇る
 ほこ 伊ヌグスの木

碓神社のイヌグスは、樹齢六〇〇年余り、高さ約一ニメートルで、神社の祠の脇にあります。このイヌグスは江戸時代、古利根川の船運が盛んなころに、碓神社のすぐ上流にいかりをおろした船着場があったため、船頭たちのひとつの目安になりました。

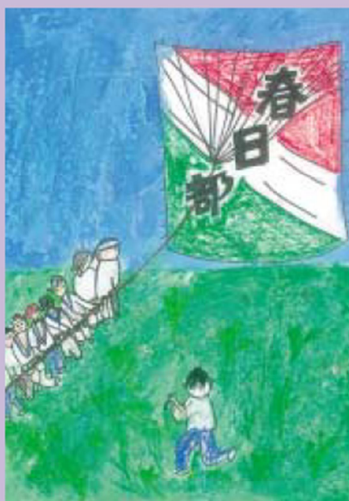
昭和三〇年一月に県の天然記念物に指定されました。



ん りゅうきゅうかん
 おおあめの 龍Q館
 こ 大雨飲み込む
 ちか 地下神殿

龍Q館は、首都圏外郭放水路内にあり、地下約五〇メートルに建設された約六キロメートルの世界最大級の地下放水路の仕組みや、洪水のメカニズム、河川の様子などについて、楽しく学べる施設です。名称は、所在地の庄和地域に伝わる「火伏せの龍」伝説と「AQUA（水）」からとられたもので、平成一五年のオープン時に公募によりつけられました。

かすかべ郷土かるた



春日部市
 春日部市教育委員会